

## 2組 修正版

担当：石井拓洋（音楽文化学研究、作曲）Ph.D.

takuyo.ishii@gmail.com

### 【授業の概要】

- a. この授業では、初歩の作曲の方法を学び、コンピュータによって音楽を制作します。
- b. 授業の基本形態としては、1限目は「講義」、2時限目は「制作」の形で進めます。
- c. 制作課題は、1.「打ち込み」の練習、2.「ミニマル音楽(風)」の2曲です。
- d. 「打ち込み」の練習では、短い平易な曲の楽譜を題材に、MIDI 打ち込みを行います。
- e. 「ミニマル音楽(風)」が制作の中心です。その作曲方法は各授業で順次丁寧に触れます。
- f. 「曲は誰でも簡単に作れる」ことはないです。しかし、最も作りやすいと思われるスタイルとして、ミニマル音楽を取り上げています。
- g. この時間の作曲では、たとえば和声（コード進行）の知識や、ピアノ演奏能力は必要としません。集中力と丁寧な作業が必要です。
- h. 制作する曲のスタイルの具体的イメージとしては、例えば、Steve Reich《Octet (Eight Lines)》(1979)を挙げておきます。
- i. 「ミニマル音楽(風)」は、授業で配布する「無音の映像素材」をもとにして、映像の文脈をいかした音作りをします。
- j. 最終的な課題提出物は、最低限、上記の「2曲」と「レポート課題」（※授業内容をふまえ、音楽を考察するものを予定）です。

### 【この授業の特徴】

- k. この授業は、音楽制作アプリの「使い方を学ぶこと」を第一の目的とする授業ではありません。“Logic”に大きな意味はありません。
- l. またせっかくの大学での授業であるにもかかわらず、単に感覚にまかせて作っているだけの時間では、あまりにも無意味です。
- m. ここでは歴史や思想との関連をふまえて、音楽という芸術・文化を考え、そして作ってみるという機会となることを目指します。
- n. そのため1限目に「講義」を実施しています。つまり、講義の内容は2時限目の制作方法を説明するような話ではありません。
- o. さらに小中高の「音楽の時間」とは違います。芸術としての音楽の今日的論点をふまえ、芸術の大学としての授業を行います。
- p. とはいえ、最初だけ最低限の「楽譜的な話」をする必要があります。音楽アプリが「楽譜的」な考え方に基づいているからです。
- q. 授業では、特に物語映像との関連の中での在り方に着目し、音楽-映像-物語との関連での意味付与の可能性を考えます。
- r. どうか藝術を志す者として、音楽文化や素材としての「音」に対し、思い込みを捨て、〈虚心坦懐〉に向き合ってみてください。
- s. 音楽文化の世界に触れるこのような機会が、皆さんの普段の美術表現活動に新たな視点を与えるものとなれば嬉しいです。

### 【留意点】

- t. 音楽という馴染みのない授業ということもあり、みなさんは今、不安でいっぱいだと思います。
- u. しかし、すくなくとも「皆のまえで音楽的なことで恥をかく」ような場面を、この授業では設定していません。
- v. つまり、「恥をかく」場面が発生する可能性がある「全体講評」はありません。そもそも音楽の文化に「講評」はありません。
- w. そのかわりに行う重要な機会が「個別対応」です。これをもって美術の文化における「講評」の代わりとします。了承ください。
- x. ただし、最終日の1限目に、提出作品やレポートについて総評する時間をもうけます。

### 【評価基準】

提出音楽作品は「音楽の流れにおける〈自然さ〉と〈意外さ〉のバランス」と、広義での「仕事の丁寧さ」（具体的には授業内で説明します）を重視して評価します（35%程度。これは目安です。以下同）。またレポートでは、学部2年次の段階であることから、記述から読める各自が「学んだ量」を評価します。さらに音楽や芸術に関する新たな視点、および美術などとの関連などの視点からの考察があれば高く評価します（35%）。その他、MIDI 打ち込みの状況や授業に対する積極性も評価します（30%）。つまり提出音楽作品の質のみですべてを評価するものではありません。なお、もし他人のファイル流用など、課題提出において不正があった場合は単位をださないことを事前に申し上げておきます。

授業資料ページがあります。

<http://www.iitak.com/2019snd/>